

## ツミの周辺で繁殖しなくなったオナガたち

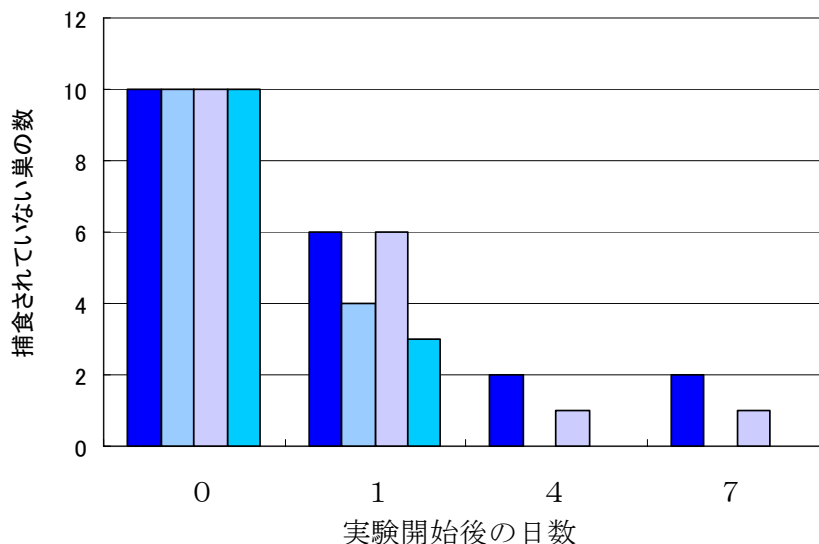
植田睦之 (NPO 法人バードリサーチ)

1990年代前半、東京都中西部のツミの巣周辺ではオナガが繁殖していました。調査した13巣のすべてで平均  $5.9 \pm 1.9$  巣オナガの営巣がみられました。ツミの巣の周囲と離れた場所に模擬巣を設置して捕食状況を調べる実験から、オナガはツミがカラス類から巣を防衛する行動を利用して、カラスによる捕食を避けていることがわかりました (Ueta 1994)。

その調査から10年を経た最近、ツミのまわりにオナガが繁殖しなくなっています。2004～2005年に観察した4巣のうち、オナガが集まっていた巣はありませんでした。

なぜ、このような状況になったのかを明らかにするために、ツミのカラスに対する防衛行動と1990年代前半と同じような実験を行ないました。カラスがツミの巣の周囲50mに侵入した場合に、1990年代前半は100%カラスを攻撃したのに対し (N=15)、2005年の調査では、2%しか攻撃しませんでした (N=137)。ツミの巣の周囲50m以内に10個の皿巣を1週間置く実験を1990年代前半には11回行ないましたが、1つの巣もカラスに卵をとられませんでした。しかし、2005年に4度 (2か所各2回) の実験を行なったところ、92.5%の巣が捕食を受けました。

調査地周辺ではカラス類が増加しているため、その結果、ツミがあまりカラスに対する防衛を行なわなくなり、ツミのそばにいる利益が少なくなったために、オナガはツミの巣の周りで繁殖しなくなったのだと思われます。



ツミの巣の周囲での捕食実験の結果。それぞれの棒は各実験を示す。開始日は10個あった巣が翌日には半数に、さらに後にはほとんどなくなってしまうのがわかる